

水げん通信

水かおる早良区

“心地よい時間”の流れるまちづくり

第2号 2007年 秋号 玉井てるひろ

〒814-0171 福岡市早良区野芥 3-26-7
TEL.092-405-3000 FAX.092-405-3001
E-mail: ttamai@ray.ocn.ne.jp
URL: http://www.comenu.com

発行者：福岡市議会議員 玉井輝大

臨山小学校での「アフリカシ。カトル
チュラル。フエアー2007」に参加
しました。会場に着くといきなり、ナ
イジェリアの民族衣装に着替えさせら
れ、その瞬間から、もう気分は、アフ
リカでした。とっても心地よい時間
が流れたひと時でした。

福岡市議会議員 玉井輝大



「椿水 (ちんすい) 会」と「κ (カッパ) 塾」

「椿水会」ができました。「女性の目で捉えた現状とこれからの語る会」で、これからいろいろなテーマで会が開かれます。11月に第一回目の会合を予定していますのでぜひご参加ください。

「κ (カッパ) 塾」をつくる準備をしています。英語表記では KAPPA (Kyushu Academy of Philosophical and Political Affairs) と考えており、「哲学・政治九州塾」というモノです。大学の恩師上田篤先生の発意によるもので、何人かの仲間とその準備会合を開いたところです。上田先生にも参加していただくつもりです。どちらの活動もこれから、「水げん通信」でお知らせすることがあると思います。

今回は「κ 塾」前段として、「心地よい時間」について考えたブログを紹介しします。(玉井輝大ブログ2006年12月2日、5日をご覧ください。http://blogs.yahoo.co.jp/terutamai)

「時間の比較社会学」真木悠介を読みました。「時間」に関する私のパイプルのひとつになると思います。

「現在の生をそれじたいとして愛する実感(生きられる共時性)」、「未来がある具体性のうちに完結する」この二つを持つことで生きている時間が「心地よい」ものになる。「こちよ時間」

の実現のため、ライフスタイルと哲学を変えなければならない。そのためのポイントは、1) お金と時間の“心”への影響を限りなく小さくする。2) 「時計を従とする」自分の時間感覚による生活。3) 「心ある道」と「共時性」を求めること。

NHK「クローズアップ現代」で、お話をただ聞いてあげるボランティアが増えているという、とても興味深い内容があった。真木悠介さんの「共時」という言葉をまた考えた。「時間」の過ごし方に関する次のようなことが湧いてきた：

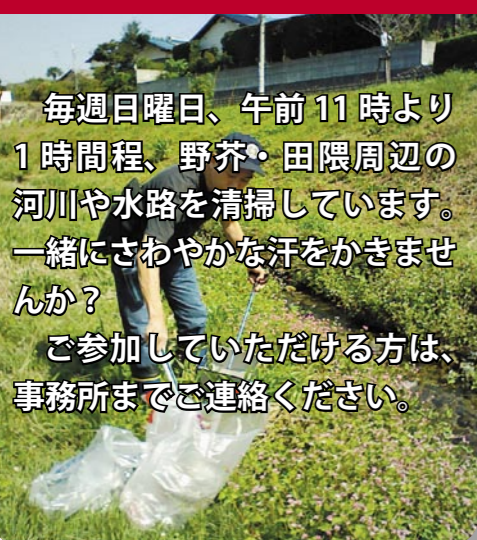
目的を持って“時間”に入り、入ったとたん我を忘れて、夢中で時間に没る。心ある時間を過ごし、「心地よい時間」だったと後で思う時間を生き、ハッと我に戻ったとき、その時間が終わったことに気づく。

時間を気にして終わる、時間を正確に終わらせるテレビ番組のまるで人ごとのような時間の流れではなく、自分の心で時間を計る。時計を気にした瞬間、夢中さが消え、“心”がその時間から離れ、我に戻る。そのとき一つの時間が終わる。

我に戻ったらまた、生きる時間の目的を少し考え、少し準備して、再び、“時間”の中へ入っていく。そしてまた、我を忘れて…。これを繰り返す。こうなると「心ある時間」を今よりは少し長く生き抜けるのでは。

まず、やってみよう、実行だ！ キーワードは「忘我」なんて言葉かな？ アッという間に「我忘」、かな。

水辺清掃を一緒にしませんか？



毎週日曜日、午前11時より1時間程、野芥・田隈周辺の河川や水路を清掃しています。一緒にさわやかな汗をかきませんか？

ご参加していただける方は、事務所までご連絡ください。

市政のこと、何でもご相談ください。

市政のことでお困りなこと、ご意見をお持ちのこと、ありませんか？

次の時間と場所でご相談を承っています。どんなことでも、何人でも玉井と話にお越しください。

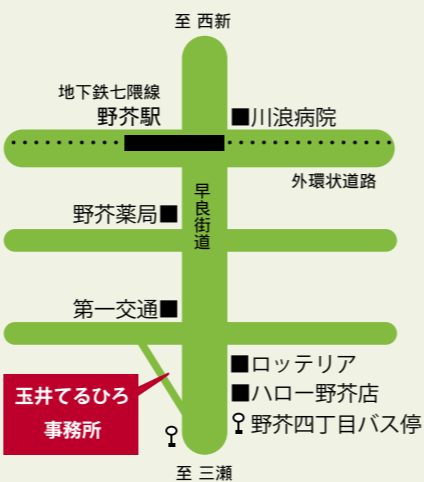
■時間 16:00 ~ 17:30

■場所 ○月・水・金曜日

民主・市民クラブ議員控室
(福岡市議会議会棟 11 階)
TEL.092-711-4736

○火・木曜日

玉井てるひろ事務所
TEL.092-405-3000



野芥の心配な交通と心地よさをつくる緑

<地域プロジェクト>

来年春に福岡高速5号線野芥ランプが完成し、一段と野芥地域の交通量が増えることが心配です。子どもたちを外で遊ばせ、お年寄りの方々も買い物に会合に安心して出歩けるような、地域環境づくりをすぐにも考えなければならないと思います。

地下鉄野芥駅付近では、スムーズに交通が流れるように、南北道路の拡幅、乗り換えのための駐車場確保、バス停との連結などで利便性を高め、より快適な通勤通学を実現しなければならないと思います。

さらに、信号機、ガードレール、歩道、標識、街灯、街路樹など、普段目にしているものがただ機能を果た



すだけでなく、総合的なデザインを考え、まちとしての統一感も造り出したいものです。

住宅街においては、窓辺を草花で飾ったり、ビルの壁面・屋上を緑で覆ったり、並木や緑豊かな公園づくりなど、地域全体で緑化を広めることで美しい街並み、温暖化緩和になる心地よい環境を生み出します。

このような「細やかなまちづくり」をおこなうためには、やはり地域住民の方の声(意見)が重要です。暮らしやすいまち、安全なまち、帰ってきたいまちをみなさんと一緒に造っていきたくと思っています。

早良の水辺を歩いて見えてくるもの

<水プロジェクト>

早良区には室見川とその支流の金屑川、油山川などが流れており、自然豊かな風土をつくっています。

8月末、曲淵ダムに流れ込んでいる八丁川の上流に位置する野河内溪谷を歩きました。こんこんと流れている水を見て、水のながれが生き物のように思えました。自然が水をつかって生命をつくり出し、私たちに心地よく包み込んでくれる。

身近にあるこのすばらしい水辺環境を守り、未来を担う子どもたちに残したい。子どもの創造性を育む遊び場として、そして、大人も一緒に楽しみ、浸り、癒される水辺環境を造り出したい。

ちかぢか、椿水路を歩きたいと思っています。



第1回「水辺・水路を歩こう会」8/25

マイナスイオンを浴びる参加者のみなさん

子どもの遊びから未来づくりを考える

<こどもプロジェクト>

小さい時に、遊び場としては、学校、自宅、友達の家、公園、空き地などのほか、雑木林や川や海など多かった。そのときの気分に応じて場所と遊び方を決めていたように思います。そして、はじめから遊び方のルールがあった訳ではなく、遊びを重ねる中で、自然とルールができ我を忘れて遊び暮れていた。

皆さん経験がおありでしょう。つまり、遊び道具やマニュアルがなくても、集団で遊びを通じて創造性を発揮して自分たちの社会を創っていった。

今の子どもの遊び場はどうでしょう？ 自分の夢を育みながら遊びをとおして育てた友情とともに大人になれる、多様な遊び環境を準備していきたいと思っています。

秋の夜長におすすめ本の紹介



●でた！かっぱおやじ
作・絵：安曇 幸子、伊野 緑、吉田 裕子
出版社：サンパティック・カフェ
ある保育園で行われた「かっぱおやじ探検」が絵本のもと。子どもの気持ちや創造力に大人も引き込まれる。



●大人問題
著 作：五味 太郎
出版社：講談社文庫
絵本作家の五味さんが書いたユーモアでユニークな子ども論。子どもの気持ちを持ち続けている五味さんだから言える持論を展開。



●チルドレンズ・ミュージアムをつくらう
著 作：目黒 実
出版社：プロンズ新社
日本初のチルドレンズ・ミュージアム「遊びと学びのミュージアム」を福島県霊山町につくったメイキング本。